平成２３年度事業報告書

平成２３年４月１日から平成２４年３月３１日まで

特定非営利活動法人　はこだて音の視覚化研究会

１．事業の成果

平成２３年度は、障がいのある人もない人も、誰もが安心して生活をおくれる心豊かで多くのふれあいに満ちた暮らしやすい生活の実現を図るために、必要な組織の基盤づくりを学習し、情報収集発信と調査研究の活動を第三ステップアップ「構築・実験」として行った。

平成２３年８月５日改正の障害者基本法第２２条（情報の利用におけるバリアフリー化）等を新たに設け、聴覚障害者の人権尊重のため、地域手話通訳者の概要を学んで、障害者のみならず多くの人びとの意思疎通の向上を図って活動を始めた。

北海道渡島総合振興局「地域づくり推進事業」(法人契約)は、北海道広域的な聴覚障害者団体のうち、釧路・札幌・旭川へ特化した手話の情報収集のためにヒアリング調査を行い、警報音などが聞こえないという不便さの実態を集めて、新しい災害情報システムづくりへの貢献を考えた。

音の視覚化フォーラム「情報のバリアフリー化シンポジウム」では、ろう者である筑波技術大学言語学博士大杉豊先生を招聘して講演した。ろう者が生活している地域を語源として特化した手話表現を紹介して熱心に作成研究の関心さが見られた。また、同一単語に異なる手話表現があっても利害なく統一選定は行わないですべて収集する必要があり、地域格差をなくするために情報・コミュニケーションの保障も必要である「完全参加と言語的平等」と助言した。

さらに内閣府社会地域雇用創造事業(個人契約)の協力により、障害者の雇用創出支援を推進するために、「３Ｄ手話アニメーションを使った地域手話教材への貢献」の事業も着手した。手話教材をつくるために地域に特化した手話（方言のような手話）を集め、３Ｄ視覚効果により左右上下回転が可能な教材の作成にあたった。一つの単語を作成する時間は６時間かかるなど、手話コミュニケーションしている人びとの雇用創出支援を検討する問題も出てきた。

それぞれの事業は特にろう者に喜ばれ、ろう者の当事者団体では実現が困難な事業を実施する、当事業に期待が寄せられている。「指定障害福祉サービス事業」という新しい事業の追加を伴い、障がい者の働きやすい職場づくりを取り組むために聴覚障害者就労支援センター構想をスタートする予定だが、許可要件に満たすように、今後開設準備を検討する必要がある。

反省点としては、狭い範囲の対象者しか組織できておらず、当事業を広く周知し、障害者と健常者がお互いに理解し合い暮らすことのできる社会の醸成を促すという目的からすれば、成果は不十分だったと言わざるを得ない。これらの反省点の原因の一つとして、当法人の構成員の多くが、コミュニケーションを取ることのできないろう者で占められていて、それ故に、コミュニケーション不足から意識統一に時間がかかり、各事業の円滑な遂行に支障をきたすことであった。未曽有の津波震災を改めて学び、一日も早く災害情報システムづくりへの貢献をステップアップに踏まえて、さまざまな課題解決をする必要がある。

この実績成果の中から「雇用創出支援」「完全参加と言語的平等」「災害情報システムづくり」「地域交流の理念」四つの柱をつくり、公立はこだて未来大学との共同研究を継続していくことで、地域ＮＰＯや民間企業、障害福祉団体などとの連携で、システムの構築と実験というステップアップに一つの区切りとして入り進むことになる。長期的な計画となるが、３Ｄ手話アニメーションを使った特化した地域手話教材の普及や北海道新幹線開業等における情報のバリアフリー化等のための地域活性化に向けての取り組み、安心して暮らしやすい社会地域づくりに大きな期待をしたい。

この一年間、事業の成果をまとめた。

２　事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業

事　業　名	事　業　内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額（千円）
①生活支援事業	１．ＩＴ研修 音の視覚化研究に関するパソコンや携帯電話の操作方法の講習を行う。 また、手話情報データベース作成方法の講習も行った。**【別表１】**	1/22	函館市総合福祉センター	５人	地域住民 ８人	１２１
	２．障がい者等に対する地域情報の提供 まちづくり情報ＤＶＤライブラリー 障害者が生活する上で必要な情報を収集し、手話や字幕付のＤＶＤを作成し、障害者等に提供した。**【別表２】**	1/22 1/27～1/29 2/26	函館市内 釧路・札幌・旭川 函館市内	３人	撮影活動者のべ３人(テーマ３種制作) 不特定多数貸し出し	１５
	３．心配事、困りごとの相談 人間関係などのトラブル、障がい者の人権（手話を使う権利など）侵害など心配事や困りごとの相談を行った。				実施なし	0
②コミュニケーション支援事業	１．自主研修「３Ｄ手話アニメーション作成技術」 日立製作所から直接に手話アニメーション編集および使用等の権利を取得して始めたため。 左右上下どの角度から自由に確かめられるものという３Ｄ視覚効果の技術を目標として地域手話を学ぶための適切な教材を提供するものである。日立が開発しているアプリケーションでは基本的な単語語句しか入っていないため、私たちが生活をしている特化した地域手話データを３Ｄ化として作成する自主学習研修を行った。**【別表１】**	8/25 10/15	函館市内 昭和事務所	５人	地域住民 自主研修 ７人	0
③音の視覚化研究事業	１．情報のバリアフリー化に関する調査（委託） ろう者が手話を行う様子をＤＶＤカメラなどで撮影して、手話の動画等の画像データを収集しデータベース化を進みながら、災害情報などのアナウンス放送の「視覚化デザイン」の一つである、手話アニメーションが表示できるディスプレイを設置する必要があるため手話アニメーションを使った新しい災害情報システムの開発等に関する調査・派遣を行った。**【別表３】**	8月から2月まで170回 1/27 1/28 1/29	函館市内 釧路市 札幌市 旭川市	３人 ４人 ４人 ４人	調査対象者 地域住民 １７０人 調査対象者 １０人 調査対象者 １０人 調査対象者 １０人	1,388
	２．音の視覚化・言葉のイメージ化の研究 手話通訳者に代わるコミュニケーションできるよう、電子機器等を利用して、外部からの音声を認識しディスプレイ上に手話等で表現できる、また、ろう者等の手話表現を音声で出力できるようなシステム（「音の視覚化」という。）を、公立はこだて未来大学と共同して研究した。	４月から１月まで	函館市地域交流まちづくりセンター貸し事務ブースおよび昭和事務所	２人	研究参加者 ３人 大学生１人と「構築方法」を議論していた。	0

	また、手話では正確に表現できない「波の音」、「船の音」、「市電の音」、「朝市で騒ぐ音」、「ハリストス正教会」、「土方歳三」、「函館こがね」、「かっぱがす」、「けっぱる」など函館ならではの音や言葉を集めて、その映像イメージ、効果音、字幕説明等をディスプレイ上に、上記のシステムで表現することにより、ろう者にも、ふるさとはこだての音を心豊に感じてもらう一助とした。					
④職業能力開発及び雇用支援事業	１．職業技能講習研修				実施なし	0
⑤暮らしやすいまちづくり推進事業	１．まちづくり調査・研究及び提言事業 音の視覚化フォーラム「情報のバリアフリー化シンポジウム」 地域活性化のため函館とその近郊の福祉関係団体及びＮＰＯ団体、行政の防災担当者、災害援助団体等の交流の場をつくり、タウンミーティングの形で行った。**【別表４】**	2/26	総合福祉センター	５人	不特定多数２０人	１６６
⑥情報収集発信事業	１．障がい者の社会生活に関する情報の収集・整理活動 ※障がい者の社会生活の不便さ、職場や地域などにおける社会的な立場などの実態調査を行った。 ①手話パンフレット制作、無料配布。 ②手話関連の書籍等の貸し出しをした。	通年	函館市内全道	６人	不特定多数	
	２．機関誌やホームページ等による各種情報発信活動 ※はこだて音の視覚化研究会のブログ構築作業を進行中。携帯電話やホームページ等による地域への情報発信を行った。	通年	函館市内全道(まちづくりセンター)	６人	不特定多数約 10000。メーリングリスト配信もある。	
	３．政策提言事業 ※障がい者が暮らしやすいまちづくりにするための施策等を行政等に対して提言する。				実施なし	0
⑦指定障害福祉サービス事業	導入検討中。				実施なし	0
⑧その他この法人目的を達成するために必要な事業	１．各支援団体との交流活動 ※ろう者など障がい者関係の団体が開催する大会や各種研修会等に参加し、情報交換などを行った。	通年	函館市内全道	６人	障害者、地域住民２０人	

（２）その他の事業　なし

平成２３年度事業実績報告・決算支出経費明細表

【別表１】

①生活支援事業（ＩＴ研修）

実　績　報　告	支　出　経　費
●ＩＴ研修会（パソコンの操作方法の訓練） （１）目的　音の視覚化研究に関するパソコンや携帯電話の操作方法の講習を行う。 また、手話情報データベース作成方法の講習も行う。 （２）開催日時　平成２４年１月２２日（日曜日）13:00～16:00 （３）開催場所　函館市総合福祉センター　２階第２会議室 （４）参加対象範囲　障害者・函館市および近郊の地域住民 （５）参加人数　８人 （６）情報保障　北海道ろうあ連盟登録手話通訳者２人 （７）チラシ配布、資料配布　２０部（澤商作成、配布） （８）音響機器借上げ　パソコンレンタル　１０台 プロジェクター、スクリーン　一式 音響装置（マイク）一式 （９）進行内容 演題「Word で作る名刺作成講座」 オリジナルの名刺を作ってみんなで交換してみよう！ 講師　工　藤　佳　子　氏（有限会社　澤　商） 於　本　郁　民　氏（社団法人　開発技術センター） １．宛名ラベル機能を使い名刺を作る ２．写真・イラストの挿入 ３．名刺作成のポイント ●自主学習研修「３Ｄ手話アニメーション作成技術」 （１）目的　日立製作所から直接に手話アニメーション編集および使用等の権利を取得して始めたため。 左右上下どの角度から自由に確かめられるものという３Ｄ視覚効果の技術を目標として地域手話を学ぶための適切な教材を提供するものです。日立が開発しているアプリケーションでは基本的な単語語句しか入っていないため、私たちが生活をしている特化した地域手話データを３Ｄ化として作成する自主学習研修を行う。 （２）開催日時　平成２３年　８月２５日（木曜日）13:00～16:00 平成２３年１０月１５日（土曜日）13:00～16:00 （２回開催） （３）開催場所　昭和事務所（函館市昭和３丁目９－１２－１０１） （４）参加対象範囲　障害者・函館市および近郊の地域住民 （５）参加人数　７人（ろう者５人、大学生２人）	報酬費 (講師謝礼金) @5,000×2 人＝10,000 旅費 (講師旅費＝交通費) @500×1 人＝500 @540×1 人＝540 (手話通訳旅費) @570×2 人＝1,140 (調査研究旅費) 撮影活動者 @500×1 人＝500 需用費 (印刷製本) 報告書作成 @5,000×1 人＝5,000 (教材費) 新日本語手話辞典 1 冊 23,100 手話学習辞典 1 冊 2,730 役務費 (手話通訳) @11,000×2 人＝22,000 委託費 (映像等制作委託) 1 人 3,000 使用料及び賃借料 (音響機器借り上げ) パソコンレンタル @5,250×10 台＝52,500 支出合計 121,010 円

（６）教材購入　③新日本語－手話辞典　１冊
Ｂ５版、1,792 ページ、手話事例 10,000 イラスト収録。
④わたしたちの手話学習辞典　１冊
Ａ５版、559 ページ、手話単語 3,500 語収録。
購入の理由：
手話情報の調査研究に必要な地域手話語源や種類等の調査活動にあたり、著作者および出版者の権利の侵害となるので、あらかじめ各地域ろうあ団体あて許諾を求める必要があるため、各地域手話の著作物有無を確認するために購入した。
また、地域に特化した手話情報が掲載されていないことを確認して手話アニメーションを作成するために使用する。

（７）進行内容
講師招聘は当初、日立製作所の手話アニメーション開発者にお願いする予定ですが、手話アニメーション編集取扱説明書の手順内容どおり自主学習研修をするしか、断られていた。
取扱説明書による自主学習研修を行った。
北海道ろうあ連盟発刊「①北海道の手話（A5 版、112 ページ、手話単語約 180 語収録)」を基に②３Ｄアニメーション化に作成したものである。
8/25、フレーム作成、顔面等データ作成技術の学習
10/15、２Ｄ/３Ｄデータ作成、HTML 作成技術の学習
1/23、３Ｄ化した手話データ、検索プログラムを作成した。「②アニメのサンプル」は、３Ｄ地域手話アニメーション・北海道版のサンプル版である。

①北海道の手話

②アニメのサンプル

③新日本語－手話辞典

④わたしたちの手話学習辞典

【別表２】

①生活支援事業（障がい者等に対する地域情報の提供）

実　績　報　告	支　出　経　費
●まちづくり情報ＤＶＤライブラリー（委託） （１）目的　障害者等に対する地域情報の提供 （２）内容　障害者が生活する上で必要な情報を収集し、手話や字幕付のＤＶＤを作成し、障害者等に提供する。 （３）実施計画の結果 テーマは６種とし、１ケ月に１テーマの録画編集活動を行ったが、テーマは３種とし１月２本、２月１本。 （４）実施した期間及びテーマ 現地派遣して撮影、昭和事務所で編集録画を作業した。 1/22 テーマ１「聴覚障害者向けＩＴ研修会」 1/27～1/29 テーマ２「情報のバリアフリー化研究調査」 2/26 テーマ３「音の視覚化フォーラム（１）」 日本手話言語地図の作成研究 2/26 テーマ３「音の視覚化フォーラム（２）」 パネルディスカッション （５）実施場所　函館市内および近郊 （６）参加対象範囲　ろうあ団体、手話関係団体委託 （７）参加人数　委託：編集録画作業者２人 ３テーマ録画編集の作業をした。 （８）撮影場所　1/22 函館市 1/27 釧路市、1/28 札幌市、1/29 旭川市 2/26 函館市 （９）映像等制作および貸し出し場所 録画編集は昭和事務所（昭和３丁目９－１２－１０１）で行い、録画編集済みのＤＶＤは、関係団体等に配布し、函館市地域交流センターの３階貸し事務ブースも貸し出しも行う。 （１０）使用ソフト ビデオ編集ソフト「Corel VideoStudio Pro X4 for Win7」 （１１）成果物 映像上に手話を使っていた状態で、字幕を入れなかった。 ・配布用実績報告書　１部 ・貸出用ＤＶＤ　　各テーマ１本×３テーマ＝３本	委託費 (映像等制作委託) @3,000×2 人＝6,000 旅費 (調査研究旅費) @500×2 人＝1,000 需用費 (印刷製本) 配布用報告書作成、5,000 (材料費) ケースパッケージ体型裁断カッター、2,900 定規、マグネット 315 ※DVD 材料は「情報のバリアフリー化に関する調査」の材料より使用。 支出合計 15,215 円

「ＩＴ研修会」
１本組

「ヒアリング」
１本組

「フォーラム」
２本組

【別表３】

③音の視覚化研究開発事業（情報のバリアフリー化に関する調査）

実　績　報　告	支　出　経　費

●情報のバリアフリー化に関する調査（委託）

（１）目的　ろう者が手話を行う様子をＤＶＤカメラなどで撮影して、手話の動画等の画像データを収集しデータベース化を進みながら、災害情報などのアナウンス放送の「視覚化デザイン」の一つである、手話アニメーションが表示できるディスプレイを設置する必要があるため手話アニメーションを使った新しい災害情報システムの開発等に関する調査・派遣を行う。

（２）実施計画の結果

①釧路・旭川・札幌は、１月２７日～２９日実施済み。

地　域	参加者状況の種別			合　計
	ろう者	手話を学ぶ人	手話通訳者	
釧　路	８人	８人	２人	１８人
札　幌	７人	－	５人	１２人
旭　川	８人	－	２人	１０人

当初各団体１０人ずつ予定していたが当日に関心を持ったため人数が増えていた。

②京都派遣を中止。

③函館市内近郊は８月から２月まで下表の通り実施済み。

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
1人	3人	3人	3人	3人	3人	2人	18人
6回	28回	42回	36回	25回	25回	8回	170回

（３）参加対象範囲　ろうあ団体、大学生研究グループ委託

（４）参加人数　①釧路・旭川・札幌　４人（ろう２人、大学生２人）
②京都派遣を中止のため参加者なし。
③函館市内近郊　実人数３人（のべ１８人）

（５）情報保障　北海道ろうあ連盟登録手話通訳者２人

（６）配布用資料および報告書　各３０部
・情報のバリアフリー化に関するインタビュー調査
・３Ｄ視覚効果の手話アニメーション説明
釧路・旭川・札幌ろうあ団体は報告書送付予定。
・北海道ろうあ連盟発刊「北海道の手話」を元に平成22年度に作成された手話データベース「北海道弁」376 語の中から、185 語を３Ｄ視覚効果を加工した地域手話アニメーション北海道版・サンプルDVDケース付き１０本作成した。

（７）著作権使用
・日立製作所の手話編集ソフト「MimeHandⅡプロフェショナル版」ライセンス１本購入した。
理由：日立製作所から直接に手話アニメーション編集および使用等の権利を取得して始めた。
・Corel社ビデオ編集ソフト「VideoStudio Pro X4 バージョンアップ版」ライセンス１本購入した。
理由：ビデオ編集の作業効率化によるバージョンアップ。

（８）編集作業用事務所借り上げ
・函館市地域交流まちづくりセンター　３階貸しブース
４月～６月、１月～３月の６ヶ月借り上げた。
インターネット環境があり、まちづくり情報ＤＶＤライブラ

旅費
(調査研究旅費＝交通費)
函館市内18人
8月分～2月分の合計
@500×170回＝85,000
釧札旭派遣4人
ＪＲ、公共交通106,720
宿泊料23,960
釧路ろう団体10人依頼
@500×10人＝5,000
札幌ろう団体10人依頼
@500×10人＝5,000
旭川ろう団体10人依頼
@500×10人＝5,000
需用費
(印刷製本)
配布用資料・報告書作成
1人5,000
(材料費)
データ用 DVD、レーベル印刷インク、DVDケース、コピー用紙、フラットファイル、ボールペン
16,128
委託費
(調査研究委託＝謝金)
函館市内18人
8月分～2月分の合計
@1,000×170回＝
170,000
釧札旭派遣
@9,000×4人＝36,000
釧路ろう団体10人依頼
@1,000×10人＝10,000
札幌ろう団体10人依頼
@1,000×10人＝10,000
旭川ろう団体10人依頼
@1,000×10人＝10,000
使用料および賃借料
(著作権使用料)
手話アニメ(ラ)525,000
ビデオ編集(ラ)7,580
(編集作業用事務所借上)
昭和事務所5月～2月
@30,000×10ヶ月
＝300,000
まちセン4～6、1～3月

リーの貸し出しが必要で使用する。
・昭和事務所（昭和３丁目９－１２－１０１）
５月～翌年２月の１０ヶ月借り上げた。
調査収集後、情報バリアフリー化の調査結果について議論をまとめ、手話情報データベース整理し作成、１月の釧路札幌旭川の発表目標に向け３Ｄ視覚効果の加工の手話編集アニメーション編集やビデオ編集作業を行う。
まちセンは午後９時閉館後引き続き作業が必要。

@3,000×6ヶ月
＝18,000

支出合計 1,338,388 円

（９）成果物
・配布用実績報告書　１部
・３Ｄ地域手話アニメーション・北海道版《サンプル版》
無償配布１０本

（１０）写真等

調査研究メンバー

1/27、釧路聴力障害者協会

3D 地域手話アニメーション・北海道版《サンプル版》

1/28、札幌聴覚障害者協会

1/29、旭川ろうあ協会

【別表４】

⑤暮らしやすいまちづくり推進事業（音の視覚化フォーラム）

実　績　報　告	支　出　経　費
●音の視覚化フォーラム「情報のバリアフリー化シンポジウム」 （１）目的　地域活性化のため函館とその近郊の福祉関係団体及びＮＰＯ団体、行政の防災担当者、災害援助団体等の交流の場をつくり、タウンミーティングの形で行う。 （２）開催期日　平成２４年２月２６日（日曜日） 午後１時から午後４時まで （３）開催場所　函館市総合福祉センター　３階第１会議室 （４）参加対象範囲　函館市内および近郊の地域住民 （５）参加人数　２０人（不特定多数参加） （６）情報保障　北海道ろうあ連盟登録手話通訳者３人 （７）進行状況 講　演 テーマ「日本手話言語地図の作成研究」 講師　筑波技術大学　障害者高等教育研究支援センター准教授　言語学博士　大　杉　　豊　先生 パネルディスカッション テーマ「障害者が安心して働き、暮らしやすい地域づくりの討論」 発表者：兼平新吾、谷　遼典 助言者：大杉　豊　先生 １．３Ｄ手話アニメーション北海道版・道南編のチェック ２．情報のバリアフリー化に関するインタビュー （８）ポスター及びチラシ 北海道渡島総合振興局　１部・１０部 函館市役所　１部・１０部 函館市総合福祉センター　１部・１０部 函館市地域交流まちづくりセンター　１部・１０部 公立はこだて未来大学　１部・１０部 中島れんばい横丁ふれあいセンター　１部・１０部 出村理容院　１部・１０部 ※北海道ろうあ連盟、函館聴覚障がい者協会、函館手話通訳問題研究会、札幌聴覚障害者協会、釧路聴力障害者協会、旭川ろうあ協会の６団体は、実績報告書と成果物を添えて配布する予定。 ポスター１３部、チラシ２００部。（別紙添付物） （９）後援名義・協力名義の承諾 後援：北海道渡島総合振興局・函館市・社団法人北海道ろうあ連盟 協力：公立はこだて未来大学（北海道障害学研究会）・函館聴覚障がい者協会・函館手話通訳問題研究会 （１０）配布用研究資料　３０部 （１１）配布用教材「手話言語法ハンドブック」２０部（写真） （１２）配布用実績報告書　１０部 （１３）写真、新聞切抜き等	報酬費 （講師謝礼金） @30,000×1 人＝30,000 旅費 （講師旅費） 交通費 1 人 42,060 宿泊料 1 人 5,300 （手話通訳旅費） 交通費 3 人 1,580 （調査研究旅費） 映像等制作に関する交通手当@500×1 人＝500 需用費 （印刷製本） ポスター作成 5,000 案内書作成 810 研究資料作成 5,000 報告書作成 5,000 （教材費） 手話言語法ハンドブック @500×20 部＝10,000 （材料費） コピー用紙、ポスター用紙、ゼムクリップ、ホワイトボートマーカー3 本 4,713 役務費 （通信運搬費） 案内書郵送料 1,300 承諾書返信用切手 640 手話アニメサンプル郵送料 380 （筆耕・手話通訳） 手話通訳料 @17,000×3 人＝51,000 委託費 （映像等制作委託） まちづくり情報 DVD 作成 1 人 3,000 支出合計 166,283 円

講演後、函館市総合福祉センターにて集合写真

(15)　2012年(平成24年) 2 月27日(月曜日)　(第3種郵便物認可)　函

函館ルネサンス　おかた美登利

地域手話通訳の概要学ぶ

音の視覚化フォーラム

NPO法人「はこだて音の視覚化研究会」（兼平新吾理事長）の情報のバリアフリー化シンポジウムが26日、函館市総合福祉センターで開かれた。同法人が取り組みを進めている地域手話学習教材の概要などが紹介され、市民ら約20人が聴講した。

同法人は公立はこだて未来大情報アーキテクチャ学科の学生とともに、地名などを手話通訳するための「地域手話学習教材」の制作に取り組んでいる。地名を言い表す場合、個人や地域によって訳し方が異なることから、実例を集約する作業などを進めている。

シンポジウムでは、兼平理事長が教材を作る目的や現在の活動状況を紹介した。実際に教材のソフトを実演し、画面で動画化された立体画像が「木古内」や「五稜郭」「湯川」などを手話通訳。その地域の特徴や象徴的な名称を表したり、文字をそのまま訳す方法などがあり、受講した聴覚障害者からも他の使用例があるかどうか確認した。

この他、筑波技術大障害者高等教育研究センターの大杉豊准教授が「地域手話の作成研究」と題して講演した。（鈴木　潤）

地域手話学習教材の取り組みなどを紹介した、情報のバリアフリー化シンポジウム

2/27 朝刊の函館新聞１５ページ掲載

フォーラム風景

配布用教材

手話言語法ハンドブック

【別表５】

事務局活動報告（経費は管理費）

実　績　報　告		支　出　経　費
③ボランティア費用	●就労支援センター「きずな風」の開設準備 平成２３年度から導入検討中の「指定障害福祉サービス事業」は、これらの柱をもとに障害者の働きやすい職場づくりを取り組むために、マーケティング活動、生産活動、販売活動といった聴覚障害者の経営の育成、訓練等を行い、一人ひとりのニーズに対応できるよう地域住民との協調のもと、ふれあいの場をつくり、地域への活性化に貢献することを目標として導入を検討している。 準備を着手していたが、「指定障害福祉サービス事業」許可申請をするために要件に満たすように進めたが、今後検討をする必要がある。	4/16 美原→昭和引越しお手伝い ２人 4,000 円 2/25 昭和→まちセン引越しお手伝い １人 1,680 円 事務員ボランティア４月～７月 賃金１人 12,000 円 計 17,680 円
④旅費交通費	事務所引越し交通手当　@240×2 人、@2,000×1 人 事務員ボランティア４月～７月　@2,000×1 人 NPO サポートセンター総会出席　@4,170×2 人 理事会出席の交通費 第１回　@500×７人＝3,500 円 第２回　@500×９人＝4,500 円 第３回　@500×９人＝4,500 円	2,480 円 2,000 円 8,340 円 12,500 円 計 25,320 円
⑤会議費	事務所引越し、ヒアリングなどの打ち合わせ茶菓代	3,107 円
⑥通信運搬費	事務局の車両運搬(ガソリン代)　9,064 円 @1,000 円以下×9 ヵ月の計上 事務処理、渡島支庁交渉など 郵送料等　810 円 資料送付、助成金申請・成果報告関連送付 起業プランコンペ応募関連送付、はがき代	9,874 円
⑦備品・消耗品費	ソフトウエア代（日本 NPO サポート寄贈） Adobe　フォトショップ、イラストレーター マイクロソフト、Win7、Office2010 事務用品等 資料用コピー用紙、ボールペン代、領収書 函館市指定ごみ処理券、ゴミ袋	3 本合計 17,941 円 1,623 円 2,167 円 21,731 円
⑨保険料	昭和事務所火災保険料　13,000 円 事務員ボランティア保険料の還付金　1,911 円	14,911 円
⑩光熱水費	昭和事務所暖房用灯油	1,000 円
⑫租税公課	登記証明手数料、収入印紙など	6,400 円
⑬賃借料	5/9 美原桂ビルの契約解除時の家賃日割	9,484 円
⑭諸会費	NPO サポートセンター、NPO 推進北海道会議（団体）	平成 24 年度へ
⑱雑費	昭和事務所合鍵、駐車料、送金手数料など	3,730 円
⑲慶弔費	2/9 清水国昭会員葬儀の供花代	12,600 円
	管理費合計	125,837 円

注：上記の番号のうち⑧⑪⑮⑯⑰は、プランコンペの経費となり０円である。
「⑲慶弔費」は、新設項目である。